

第十一章 やがてくる日に

やがてくる日

向坂先生のお話になが

司会（佐久間）：第十二章 やがてくる日にを東京東部県協の島田実さんにレポートしていただき、学習交流をしたいと思います。

島田：この学習講座『やがてくる日に』は、今回が最終回です。テキストに沿ってレポートします。

皆さんが三池から一年間の学習を通して学んだことを報告して交流を深めたいと思います。

川野さんは、次のように述べられています。

三池炭鉱の発祥からひも解き、発展・衰退、廃坑までの時系列的な整理を行い、それと相まって進んだ三池労働者運動がどのように、展開されてきたのかを歴史からまなび、記すことができました。

三池の労働者として、家族ぐるみでたたかいた続けた教訓のもと、これからどう活かしていくのか、今後の追求していく課題とはなにかを最後に記したいと思います。

「私は凡人であり秀才ではないから、こつこつと地道に努力する以外にないことを自覚し、このことが力になることを知った」と。向坂先生は、1924（大正13）年に開設された九州大文学部部の教授でした。

1928（昭和3）年、人民戦線事件（3・15事件）で九州大学を追われ、投獄されました。その後、1946（昭和21）年、九州大学に復帰し労働者階級の解放のために尽力されました。

◆みんなの学習講座



第7回三池友の会にまなぶ全国交流会戦跡巡り
2010年10月2日 旧三川坑正門前にて

「労働者は社会の主人公である。職場の主人公である。労働者は社会の担い手であり職場の担い手である。労働者は主権者である」。

CO中毒のメカニズム

CO中毒とは血液中へのヘモグロビ

ンと二酸化炭素が結びつき、中毒を発症します。このヘモグロビンは、脊椎（せきつい）動物の赤血球に多量に存在し、酸素を運搬する色素たんばく質です。このヘモグロビンの機能というのは、酸素と親和力が大きいのですが、一酸化炭素との親和力は酸素の300倍以上も強く、人間の呼吸する空間の一酸化炭素の濃度が大きければ、酸素を駆逐し、一酸化炭素中毒を併発してしまふこととなります。

歴史からまなぶ

交流を積み上げる

「交流は幾万枚のビラよりまきる」というレーニンの言葉がありますが、向坂先生も、交流によって必ず労働者の運動は広がっていくことを常々言われていました。

この三池闘争から社会主義青年同盟が生まれ、労働大学の『まなぶ』が全

国に広がったからです。その後も、三池にまなぶ会全国集会所が始まり、全国から多くの労働者が集まって交流してきました。そして三池からも全国各地のたたかいに参加し、まなぶできました。

歴史からまなぶことなくしては労働者の未来はないと思います。その歴史をつくったのは労働者と家族です。私たちには三池労組と主婦会という組織の団結によるたたかいの歴史がありました。

友の会運動と

CO闘争は車の両輪

三池の三川坑爆発では、災害の日に全員が結集し、被災者の救助と抗議行動を展開しました。災害は、資本主義的合理化によって起こります。三池では、労働者に不団結を持ち込まれ、分断されたことによってこの合理化を許



第6回三池友の会にまなぶ全国交流集会

職場、生活の見直しの討論

2009年10月16日、伊香保温泉

職場・生活の見直しは

階級闘争の基礎

生命と健康を守ることが階級闘争の基礎である。

60年の三池闘争の就労後のメモ化闘争とは、対資本を目的意識的に取り組まれました。不当な差別・保安無視・職制の横暴に対する取り組みとして、「点検・調査なくして職場闘争なし」を基本に、保安・差別・職制の言動等を「いつ、何処で、誰が、何を」のメモ化を取り組みました。

メモ化の内容は、

- ①生活の見直しⅡ朝・昼・夕の食事のメニュー・経費・食事のあり方。
- ②職場の見直しⅡ職場の実態・休憩の実態・職制の言動・保安問題等。
- ③新聞・テレビ等のニュースで感じたこと。職場・生活で感じたこと。
- ④家計簿Ⅱ1カ月の総収入の内容、総支出の内容。

それとは別に健康アンケートの取り組みです。病名・診療内容・治療内容・経費・通院 入院内容・日数
討論の柱は、

- ①CO患者・家族と紙一重の実態 したがって支援から共闘への理解
- ②「資本主義的合理化は人殺しである」という理解を、交流で組織的に深め合う。

職場 生活の見直しを

家族ぐるみで

三池では、「家庭の中に労働組合運動を」というのが主婦会のスローガンでした。企業定年になり、組合を離れると主体的な運動を取り組むことが困難となり、今までの職場のたたかいが無くなり、怒り、要求が薄れます。したがって、生活の見直しのメモ化の取り組みを家庭内に運動として広げていくということなのです。

したことが災害の最大の要因であり、原因であると総括しました。したがって、「抵抗なくして安全なし、安全なくして労働なし」という長期抵抗路線の確立を目指していくということなのです。

この抵抗を組織することが労働運動再生の課題であり、これを友の会とCO共闘にまなび、車の両輪で取り組んでいくということなのです。

◆みんなの学習講座

また、職場内だけでなく家庭の中に労働運動を作るのがＣＯ闘争の基本でした。

家族ぐるみの民主化闘争が、職場の民主化運動に発展し、差別反対闘争を支え、労働者相互の信頼、団結を支える役割を果たしてきました。

展望は取り組み次第

取り組みがあつて展望が出るし、運動は発展します。毅然とした「学習反合理化 社会主義」の基調を下に取り組めば、必ず組織は発展する。友の会運動は、法則通りに取り組みれば、発展するということを実証していきましよう。最後に、ぜひ、原則を大切にしてください。

さらに言えることは、決めたことは必ず守るといふことです。

司会（佐久間）…島田さん、レポート

ありがとうございます。

皆さんの方から質問、意見等を出してください。

高井…レポーターからありました、テキストの62ページに向坂先生が1928年に九州大学を追われ、「人民戦線事件」で投獄されたように受け取れますが、実際に投獄されたのは1937年だったと思います。

磯部…人民戦線事件とは、どんな事件でしたか。

古賀…それは、1930年代後半、フアシズムの台頭に対抗するため、日本で共産党や社会主義者、労働者、知識人などが「人民戦線（反ファシズム統一戦線）」を結成しようとした運動を、政府が「治安維持法」違反として弾圧・検挙した事件です。

特に1937〜38年にかけて、労働派の運動家や大学教授（大内兵衛、美濃部亮吉など）が大量に逮捕され、共産主義者だけでなく、反ファシズムの

思想を持つ人々全般への弾圧が強化された、戦時下の思想弾圧の代表例です。渡邊…ＣＯ中毒メカニズムというのが書いてありますが、「練炭中毒」と似たようなものですか。

島田…そういうことですね。

熊谷…「交流は幾万枚のビラよりもまさる」とは、具体的にはどういうことですか。

高井…俺たちが三池に民泊した時、川野さんは、しつこく繰り返して言っていました。「交流は幾万枚のビラよりまさる」と。人間と人間がお互いに交流する、人間関係を作りながら、信頼関係を高め運動を広めていくということではないですか。

渡部…友の会運動とＣＯ闘争は車の両輪とありますが、これはどんな意味、中身なんですか。

福田…この時代よく言われたのは、社会青年（社会主義青年同盟）と労働大学は車の両輪といわれていました。



熊本県荒尾市緑ヶ丘やよい町社宅
中村誠さんご一家と
左端が25歳の福田健二さん

島田：「抵抗なくして安全なし、安全なくして労働なし」という長期抵抗路線の確立を目指して、抵抗を組織することが労働運動再生の課題ということに引っ掛かっているのではないかと思います。

三池闘争から学んだこと、 何を掴んだのか

司会（佐久間）：最後に三池闘争から学んだこと、何を掴んだのか話してく

ださい。

渡邊：東京はメモ化の取り組みが弱いように感じます。関東の仲間は三池から学んでメモ化に力を入れて取り組んでいます。一度交流の機会があれば一緒に学習をしたいと思います。

高井：企業を定年退職して17年になります。テキスト65ページ中段で言われている「組合を離れると、今までの職場のたたかいが無くなり、それとともに怒り、要求が薄れます。」それと今の状況が同じです。

退職前までは労働組合で闘う方向とこのころは、皆で議論して皆で一緒にいこうとなるけど、企業定年して職場を離れてしまうと、自分が前に出て取り組むことが難しくなります。

田口：レポートの最後に、決められたことは必ず守る。テキストにも相互信頼と団結は、規律からだと言議の5分前に集まる、これが繰り返して提起されています。学習会はたたかいの砦で

ある。このことを今回の学習会を通じて再確認できました。

熊谷：今、労働組合が弱体化する中で、今日もレポートされた「抵抗なくして安全なし、安全なくして労働なし」このことが、本当に私たちが取り組んでいく闘いの中身だ、ということを一年の交流を通じてわかりました。

三池がきっかけになって

福田：「三池にまなぶ全国集会」に参加したのは、25歳（1972年）の時です。先輩の加藤さんに言われて参加しました。それまでは、職場の不満分子の一人でした。「三つ子の魂百までも」、その当時は参加しただけで、山のものなのか、海のものなのか、まるつきり訳が分からない中で参加しました。

二晩、三池の組合員のご自宅（社宅）に泊めてもらいました（右上写真）。

◆みんなの学習講座



全国からの参加者が皆社宅に民泊しました。当時はまだ多くの人が炭鉱で仕事をしていました。

東京に帰ってから、すぐに社青同盟員になり、組合の役員にもなりました。その後社会党党員にもなり、労働大学本科講座を受講するようになり、まなぶ学習運動に参加しました。「三池」がそういうきっかけになったのかなというところです。

このテキスト・学習材料を見ると昔のことが思い出されます。

「このままでは終わらせられない」

今78歳 職場から離れ、労働運動に直接は関われないけれども、今、東京西部県協の活動の一つとして、「定年になったからといっても、このままでは終わらせられない」と言っているわけですね。子どもや孫の代を思った時に、今の戦争ができる法律ができて

いたり、物価高、生活をする上において困難な状況があります。年金だって掛け金だけ払っても貰えない状況など、そういうことを思った時には、何とかしなければいけないという思いです。

何十年経っても忘れることができない悔しかった思いを原動力に、活動を続けようとしています。自分を作った原点は、私の場合は「三池労働者運動」があつたからです。

司会（佐久間）…一年間、ご苦労さまでした。第5回までは、各人の運動を総括しながら報告と交流をしてきましたが、第6回以降はテキストの内容に沿ったレポートと学習になりました。

私たちは、今回、三池闘争が残した教訓を川野さんがまとめた『やがてくる日に』を学び、私たち自身が、これからのたたかいかや生活の上で活かしていくことを確認したいと思います。